



令和6年6月25日

東京都千代田区四番町5番地3
科学技術振興機構（JST）
Tel : 03-5214-8404（広報課）
URL <https://www.jst.go.jp>

創発的研究支援事業における2023年度新規研究課題の決定について

JST（理事長 橋本 和仁）は、創発的研究支援事業の2023年度研究提案募集における新規採択研究代表者および研究課題を決定しました。

本事業は、特定の課題や短期目標を設定せず、多様性と融合によって破壊的イノベーションにつながるシーズの創出を目指す「創発的研究」を推進するため、既存の枠組みにとらわれない自由で挑戦的・融合的な多様な研究を、研究者が研究に専念できる環境を確保しつつ長期的に支援します。また、創発を促進するため、支援期間中は異分野を含む多様な研究者同士が相互に触発し、切磋琢磨する「創発の場」を設けることで、破壊的イノベーションにつながるシーズの創出を目指すものです。

2023年度研究提案の募集を行った結果、多様な研究者から2,644件の応募がありました。

募集締め切り後、書類選考と面接選考（事前評価）を実施し、243件の研究課題とその研究代表者を採択しました。

研究代表者や研究課題は下記ホームページを参照してください。

<https://www.jst.go.jp/souhatsu/index.html>

<添付資料>

参考1：創発プログラムオフィサー

参考2：選考の観点

<お問い合わせ先>

科学技術振興機構 創発的研究推進部

〒102-8666 東京都千代田区四番町5番地3

加藤 豪（カトウ ゴウ）

E-mail : [souhatsu-application\[at\]jst.go.jp](mailto:souhatsu-application[at]jst.go.jp)

※お問い合わせは電子メールでお願いします。

<科学を支え、未来へつなぐ>

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JSTは、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JSTは荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JSTは、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

創発プログラムオフィサー

参考1

氏名	所属機関	役職
有田 誠	慶應義塾大学 薬学部	教授
岡田 眞里子	大阪大学 蛋白質研究所	教授
沖 大幹	東京大学 大学院工学系研究科	教授
加藤 忠史	順天堂大学 大学院医学研究科 精神・行動科学	主任教授
グン チェンピン 龔 劍萍	北海道大学 先端生命科学研究院、WPI-ICReDD	教授
後藤 真孝	産業技術総合研究所 人間情報インタラクション研究部門	首席研究員
斎藤 通紀	京都大学 高等研究院	教授
榊原 均	名古屋大学 大学院生命農学研究科	教授
塩見 淳一郎	東京大学 工学系研究科	教授
鄭 雄一	東京大学 大学院工学系研究科 神奈川県立保健福祉大学	教授 理事・副学長・研究科長
永江 知文	大阪大学 核物理研究センター	特任教授
馬場 秀夫	熊本大学	学長特命補佐
古原 忠	東北大学 金属材料研究所	教授
森 初果	東京大学 物性研究所	教授

※所属・役職は令和6年4月末時点のもの

選考の観点

創発的研究支援事業の選考の基準は、以下の通りです。

- a. 本事業の趣旨に合致しているか。
- b. 本提案募集の対象となる研究提案であるか。
- c. 研究提案者自らの構想に基づく研究提案であるか。
- d. 研究構想を実現しようとする意欲があること、実現の可能性が感じられるか。
- e. 必要な研究遂行能力および体制を有しているか。
- f. 研究構想の実現に向けた実践や他の研究者との議論・相互触発の取り組みなどを通じて、新興・融合領域の開拓、関係研究分野の継続的な発展への貢献が期待できるか。
- g. 創発的研究の遂行にふさわしい研究環境の確保に向けて、必要に応じて研究機関に対し協力を求めたり、調整したりする意志があるか。
- h. 募集要項に示した独立に関する条件について、独立見込み（3年以内）の場合、独立に向けた意欲が高く、また可能性が高いか。

また、研究費の「不合理な重複」ないし「過度の集中」に当たるかどうか、選考の要素としました。